官　庁　報　告

官　庁　事　項

海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画の変更の公表について

海洋生物資源の保存及び管理に関する法律（平成八年法律第七十七号）第三条第七項の規定に基づき、海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画（平成二十九年十一月二十九日公表）の一部を平成三十年五月三十一日付けで次のように変更したので、同条第九項の規定において準用する同条第六項の規定に基づき、公表する。

平成三十年六月二十日

農林水産大臣　齋藤　健

海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加える。

改正後	改正前
第１　（略）	第１　（略）
第２　特定海洋生物資源ごとの動向に関する事項	第２　特定海洋生物資源ごとの動向に関する事項
１　第１種特定海洋生物資源ごとの動向	１　第１種特定海洋生物資源ごとの動向
(1)～(5)　（略）	(1)～(5)　（略）
(6)　まさば及びごまさばの動向	(6)　まさば及びごまさばの動向
我が国周辺水域のまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群に、また、ごまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と主に東シナ海に分布する東シナ海系群に大別され、それぞれ両系群は一部水域において混在して分布している。全般としては、ごまさばは、まさばに比べ南方域に分布しているが、近年、太平洋では北海道沖合まで分布が見られている。	我が国周辺水域のまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と日本海及び東シナ海に分布する対馬暖流系群に、また、ごまさばは、太平洋に分布する太平洋系群と主に東シナ海に分布する東シナ海系群に大別され、それぞれ両系群は一部水域において混在して分布している。全般としては、ごまさばは、まさばに比べ南方域に分布しているが、近年、太平洋では北海道沖合まで分布が見られている。
まさば太平洋系群は、2004年、2009年、2013年に豊度の高い加入があり、2016年の資源量は235万トンである。親魚量から資源水準は中位と判断され、また、過去５年間（2012年～2016年）の親魚量の推移から動向は増加と判断されるが、北西太平洋公海での外国漁船による採捕の影響も懸念されることから、その動向には注意が必要である。まさば対馬暖流系群の2016年の資源量は59万トンで、親魚量から資源水準は低位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は増加と判断される。ごまさば太平洋系群の2016年の資源量は23.4万トンで、親魚量から資源水準は中位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は減少と判断される。ごまさば東シナ海系群の2016年の資源量は13.1万トンで、親魚量から資源水準は中位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は横ばいと判断される。	まさば太平洋系群は、2004年、2007年、2009年、2013年に豊度の高い加入があり、2016年の資源量は235万トンである。親魚量から資源水準は中位と判断され、また、過去５年間（2012年～2016年）の親魚量の推移から動向は増加と判断されるが、北西太平洋公海での外国漁船による採捕の影響も懸念されることから、その動向には注意が必要である。まさば対馬暖流系群の2016年の資源量は59万トンで、親魚量から資源水準は低位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は増加と判断される。ごまさば太平洋系群の2016年の資源量は23.4万トンで、親魚量と資源量から資源水準は中位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は減少と判断される。ごまさば東シナ海系群の2016年の資源量は13.1万トンで、親魚量から資源水準は中位、過去５年間（2012年～2016年）の資源量の推移から動向は横ばいと判断される。
まさば及びごまさばは、共に新規加入群の状況によって変動が大きいことから、資源動向について今後とも注視する必要がある。	まさば及びごまさばは、共に新規加入群の状況によって変動が大きいことから、資源動向について今後とも注視する必要がある。
(7)・(8)　（略）	(7)・(8)　（略）
２　（略）	２　（略）
第３　第１種特定海洋生物資源ごとの漁獲可能量に関する事項	第３　第１種特定海洋生物資源ごとの漁獲可能量に関する事項
１～３　（略）	１～３　（略）